



大地震があっても、元気なかつしかを再建する

震災復興の進め方のあらまし

『葛飾区震災復興マニュアル（都市・住宅編）』概要

不幸にも震災に見舞われた場合、より安全で住みよいまちを再生し、いち早く、区民の日常生活を取り戻していくことが重要となります。区では、これらの取り組みを区民とともに進めていくため、『震災復興マニュアル〈都市・住宅編〉』を定めました。

平成 21（2009）年 3 月 葛飾区





もし大地震が起きたら！

東京では、大地震の切迫性が指摘されています。もし東京直下で大地震が起きると、本区では地盤液状化による建物被害、ならびに火災が拡大して甚大な焼失が生じる可能性があります。

★本区の被害想定（東京都防災会議「首都直下地震による東京の被害想定」平成 18 年 3 月）

前提条件		内 容	
震源地		東京湾北部	
地震発生時		冬の夕方 18 時、速 15m	
地震の規模・震源深さ		M6.9 30~50km	M7.3 30~50km
人口等		夜間人口：421,519 人 昼間人口：345,365 人	
建物棟数		木造棟数：74,353 棟 非木造棟数：26,908 棟	
主 な 被 害	震度 6 強の面積率	41.8%	88.6%
	◆人的被害 死者	415 人	726 人
	負傷者	4,657 人	9,073 人
	◆建物被害 (全壊)：木造/非木造	6,676 棟/630 棟	12,180 棟/986 棟
	(焼失)：全壊含む/全壊含まず	30,298 棟/26,992 棟	42,360 棟/34,420 棟
	◆その他		
	帰宅困難者	31,615 人	31,615 人
避難者数 (1 日後)	211,339 人	285,063 人	
避難所生活者 (1 日後)	137,370 人	185,291 人	
震災廃棄物	262 万トン	368 万トン	

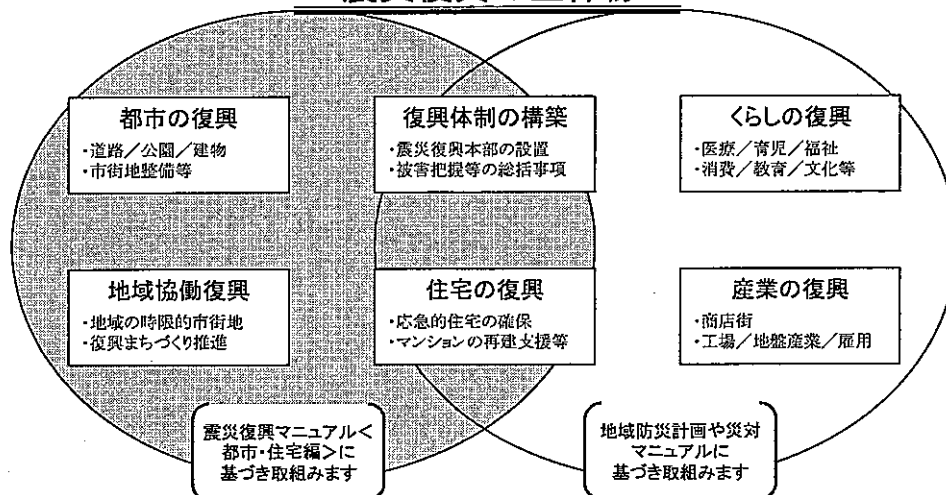
震災復興マニュアルとは？

(1)震災復興マニュアルの目的

この「震災復興マニュアル（都市・住宅編）」は、葛飾区において大規模な地震災害が発生した場合に、区がとるべき都市・住宅分野の復興対策、及び区民のみなさんが協働してとりくむ復興まちづくりについての手順を定めたものです。

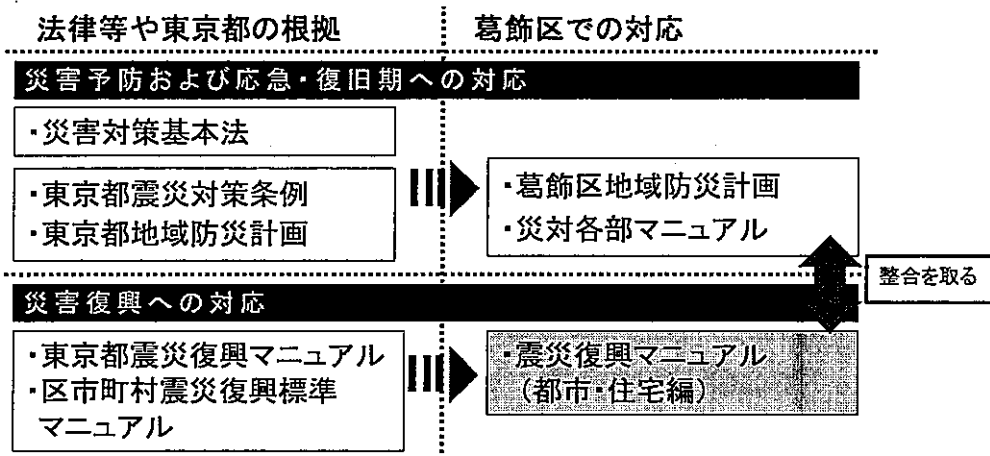
今回策定したマニュアルは、下図の「復興体制の構築」「都市の復興」「地域協働復興」「住宅の復興」です。「くらしの復興」「産業の復興」については、地域防災計画に従って展開していきます。

震災復興の全体像



(2) 震災復興マニュアルの位置づけ

本マニュアルは、区の地域防災計画と災対策各部マニュアル、及び東京都震災復興マニュアルを受けて策定しました。また地域協働復興の進め方については、区民の協力を得て模擬訓練を実施し、その成果を盛り込みました。



(3) マニュアルの使い方

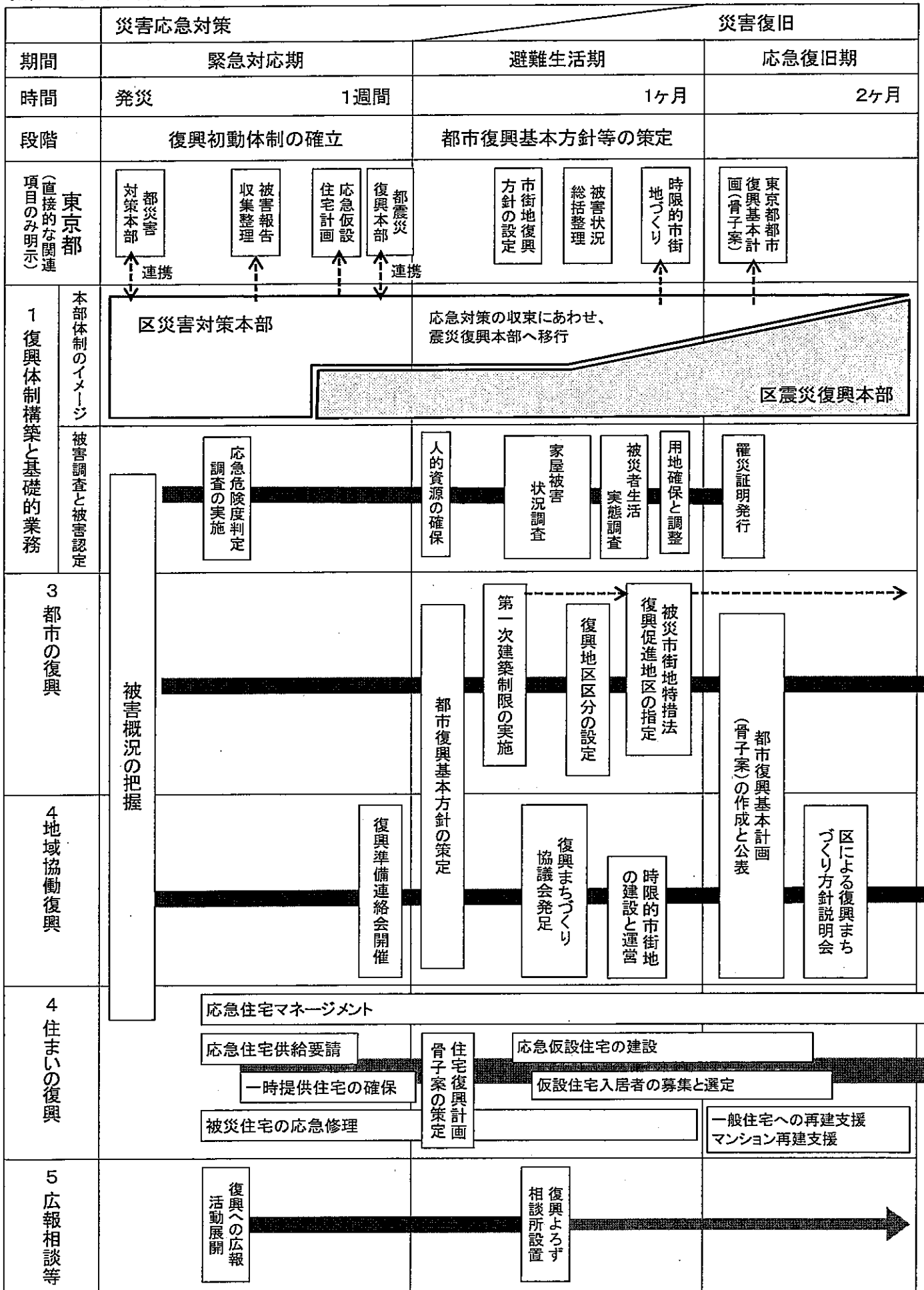
区では、都市・住宅編に引き続いて、「くらしの復興」（教育や文化の復興・被災者の暮らし回復を支援）、「産業の復興」（商工業の振興・雇用の回復を支援）に関する震災復興マニュアルの策定について検討を進めます。

また、策定した「震災復興マニュアル」は、東京都や国の動向をふまえ、随時、マニュアルを改訂していきます。

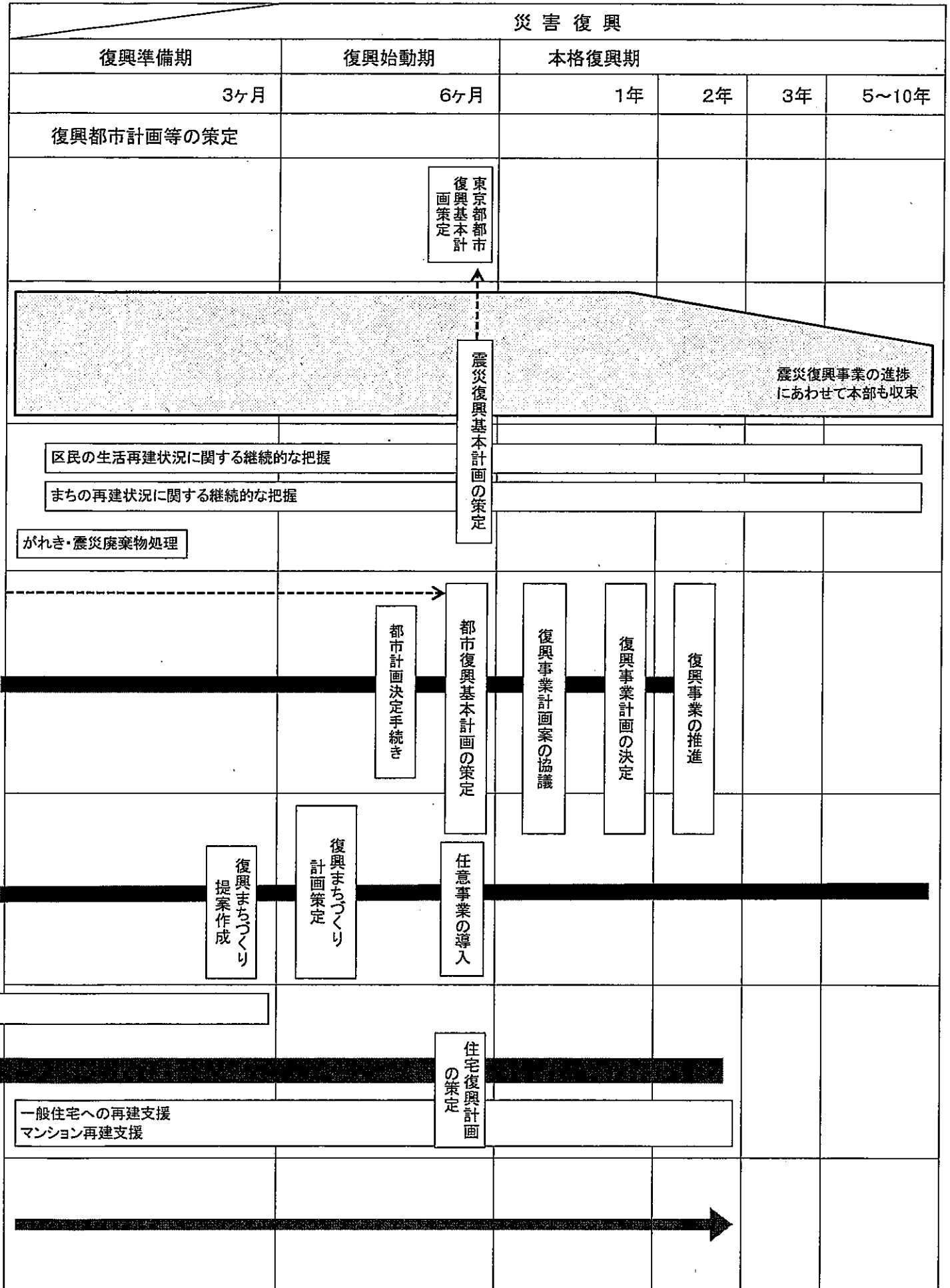
震災復興の全体シナリオ

甚大な被害が生じた場合の復興対策のシナリオを整理すると次ページのとおりです。応急対策の収束にあわせ、早い段階から準備をはじめ、様々な対策を開始し、概ね 6 ヶ月で全体の復興計画をまとめます。

葛飾区における都市復興のプロセスとスケジュール

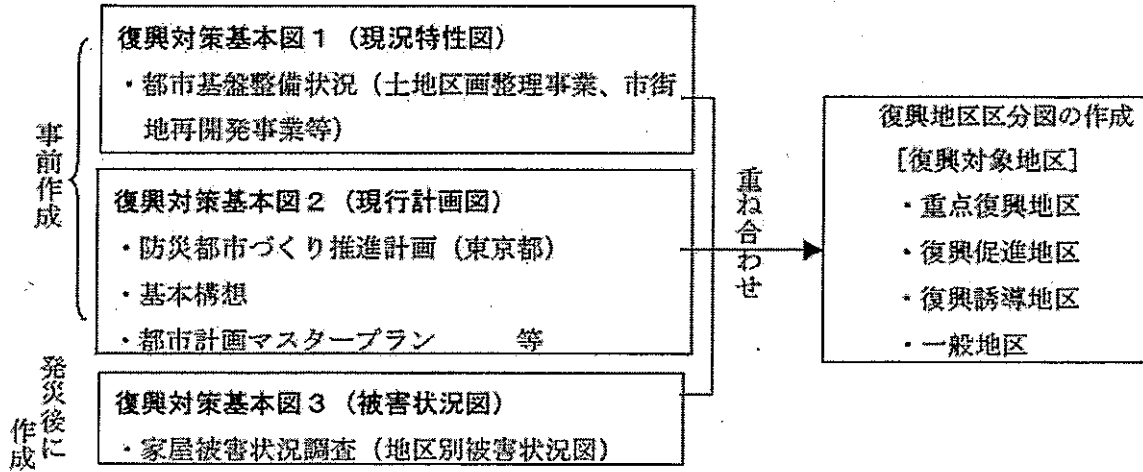


災害復興



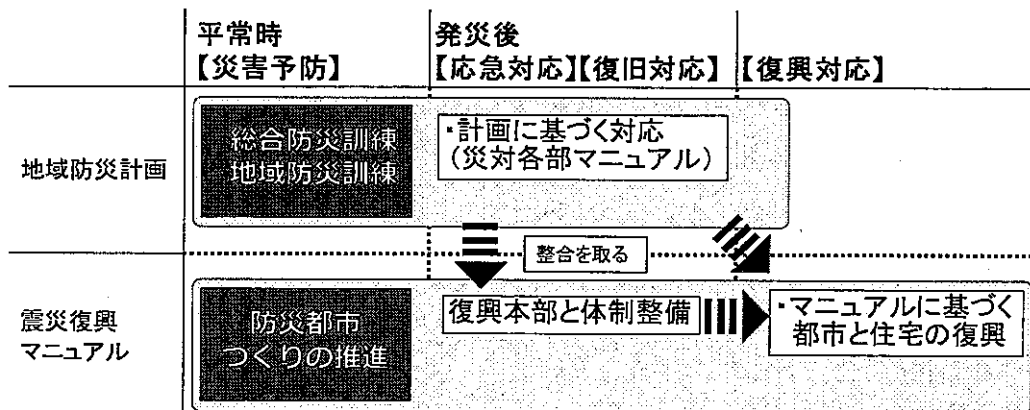
復興対象地区区分の指定

本調査では、東京都震災復興マニュアルにおいて事前から必要とされている「復興対策基本図1・2」を作成しました。震災時には「復興対策基本図3（被害状況図）」を作成し、三つの図を重ね合わせることで「復興地区区分図」作成の資料とします。

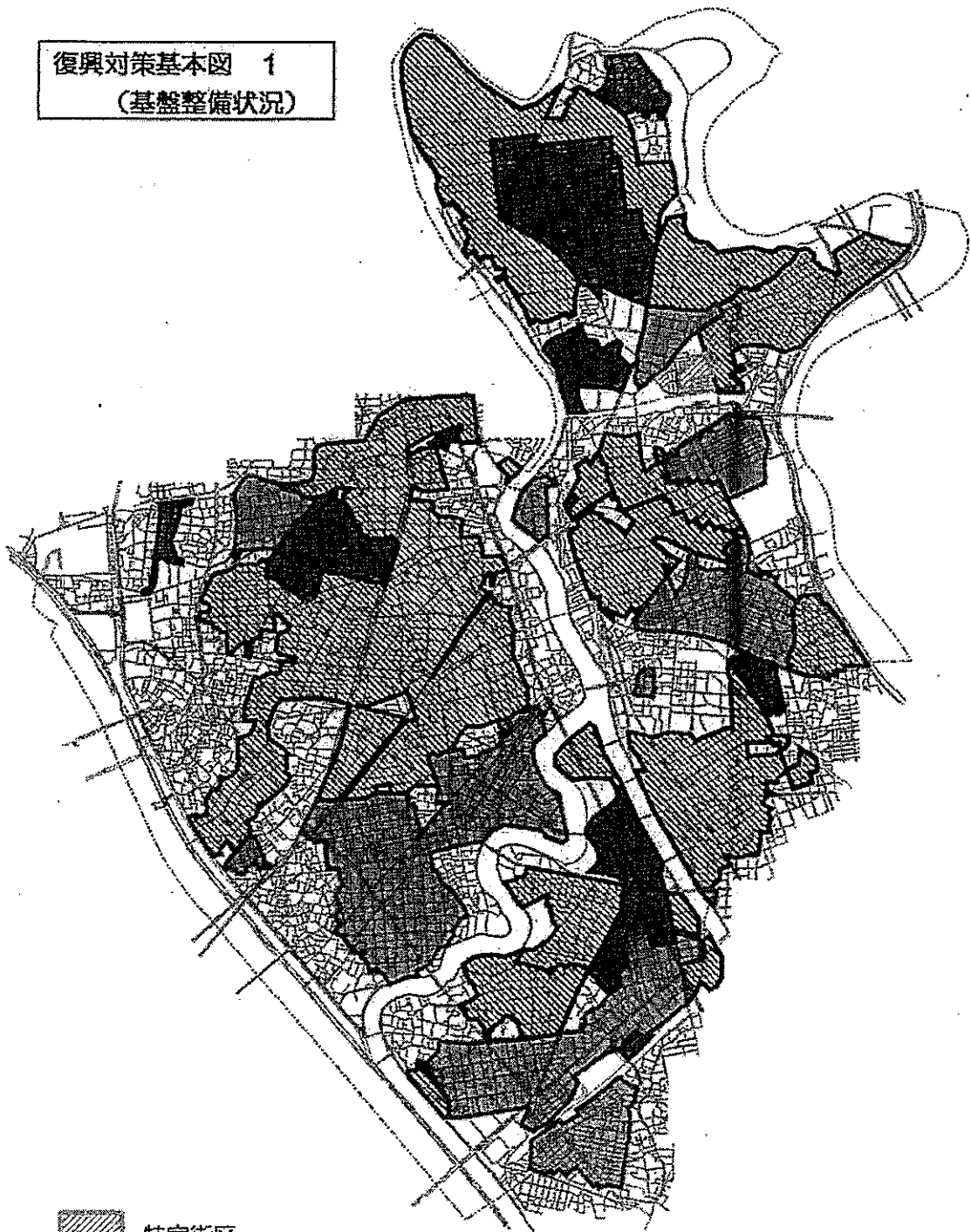









事前に考えておく復興対策

マニュアルは作成しましたが、応急対策の後、これまで以上に安全で快適なまちに復興していくことは簡単なことではありません。その意味でも、被害を最小限に留めるような対策を事前に行っておくことが最大の復興対策といえます。このため、区では防災都市づくりや災害に強い家づくりなどのハード面での対策を進めるとともに、防災訓練や避難所運営訓練などによる地域の防災力向上など、さらなる取り組みを進めていきます。

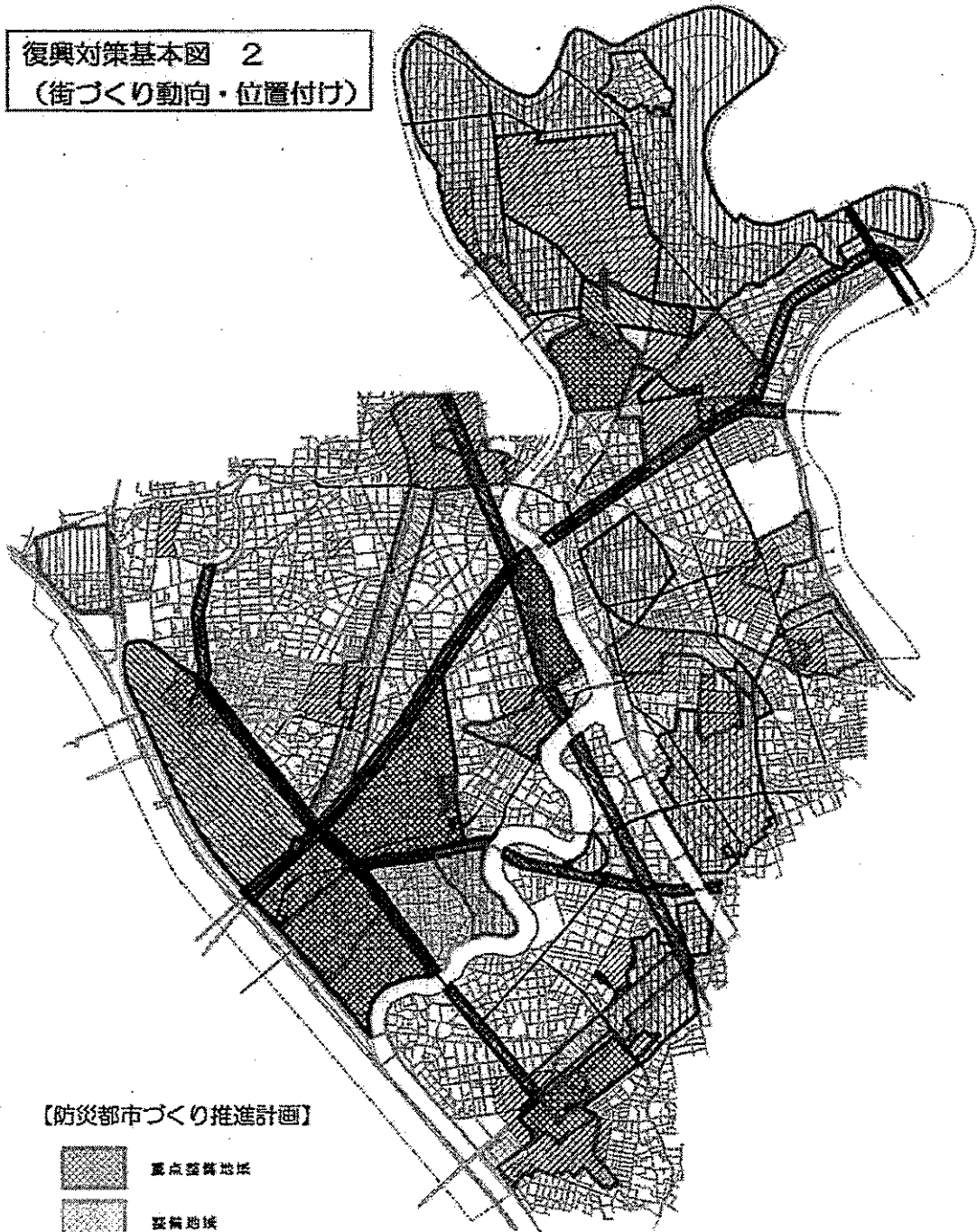


復興対策基本図 1
(基盤整備状況)




- | | | | |
|---|----------------|---|----------------|
|  | 特定街区 |  | 耕地整理事業地区 |
|  | 市街地再開発事業区域 |  | 土地改良事業地区 |
|  | 土地区画整理事業（新法）地区 |  | 一団地の住宅施設事業（完成） |
|  | 区画整理組合（旧法）施行地区 | | |

復興対策基本図 2
 (街づくり動向・位置付け)




【防災都市づくり推進計画】

-  重点復興地区
-  復興地域


【都市再開発の方針】

-  再開発促進地区
-  再開発誘導地区




【東京都住宅マスタープラン】

-  特定促進地区


【防災街区整備方針】

-  防災再開発促進地区

【既決定の都市施設計画】

-  都市計画道路・未完成
-  幹線道路計画・新線路線
-  都市計画公園・緑地・未完成

-  地区計画区域

-  土地区画整理事業を施行すべき区域

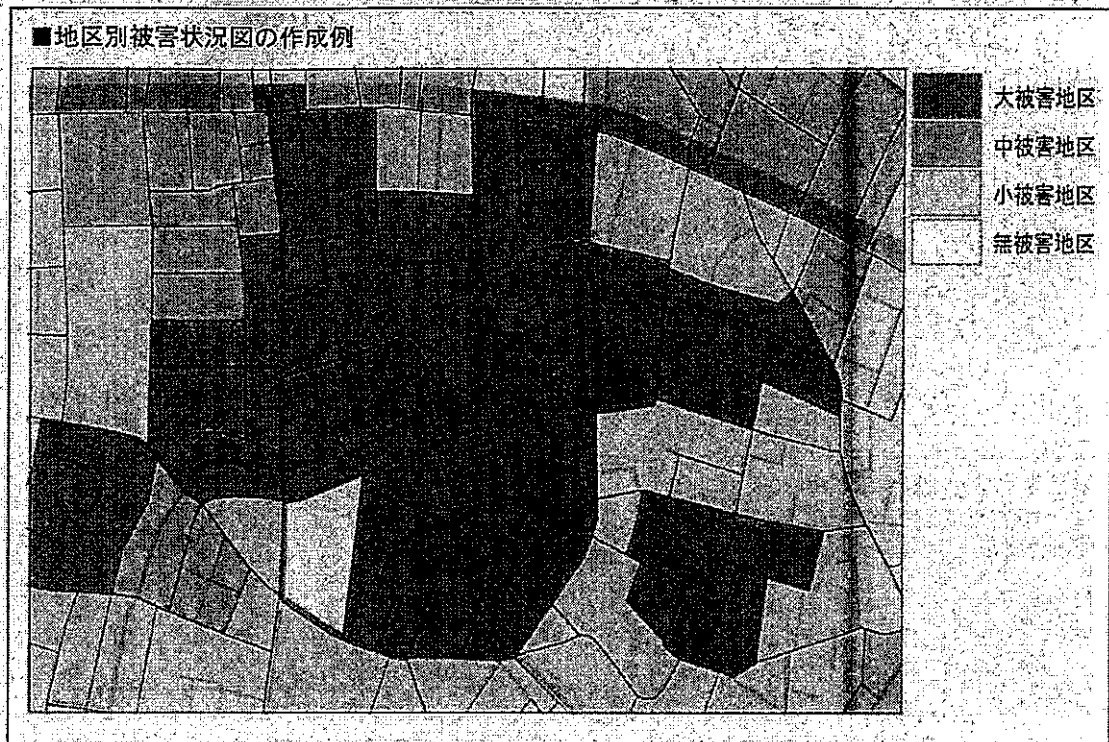
復興対策基本図 3
(被害状況図)

■被害区分

区 分	判 定 基 準
大被害地区	おおむね被害度80%以上の街区が連担した地区
中被害地区	おおむね被害度50%以上の街区が連担した地区
小被害地区	上記以下の割合で部分的な被害が見られるすべての街区の連担した地区
無被害地区	被害がほとんど見られない地区

被害度：一定区域（街区又は町丁目）における全家屋棟数に占める全壊家屋と半壊家屋と全半焼家屋を合算した棟数の割合の100分比。

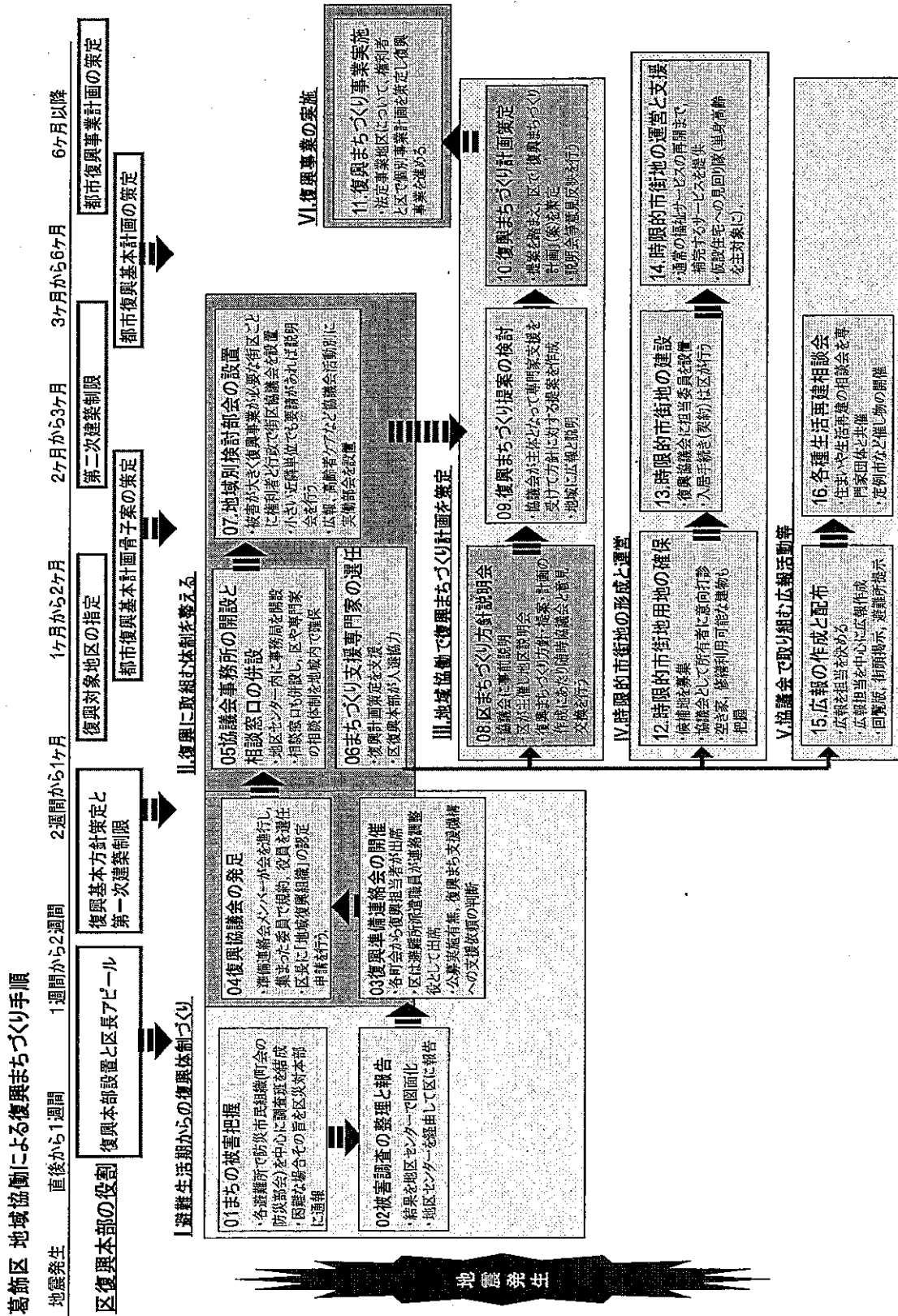
■地区別被害状況図の作成例



地域協働の復興の進め方

地域住民を主体にした「地域協働復興」の手順は次のとおりです。

土地区画整理事業や道路等の整備が計画される場合、該当区域に係る検討会等を設置し、計画づくりを進めます。協議会からも担当委員が参加し、地区全体の復興と調整を行います。この期間、被災者は様々な箇所に避難しているため、広報活動など十分に配慮して進めます。



参考 震災復興模擬訓練とは

今回の震災復興マニュアルのうち、特に地域協働復興の進め方については、平成16年度新小岩地区（主催：新小岩地区連合自治町会）、平成20年度堀切地区（主催：堀切地区まちづくり懇談会地域防災部会）における震災復興模擬訓練に参加された区民の方々の意見をもとに策定しました。

堀切地区の震災復興模擬訓練の様子をご紹介します。

参加者は、町会自治会/商店会/堀切地区まちづくり勉強会/公募参加者/行政職員/災害復興まちづくり支援機構/首都大学東京で、各回50～70人、報告会は120人でした。

ガイダンス（平成20年10月22日）

「大地震の切迫性と復興への備えの必要性」「堀切地区震災復興模擬訓練の進め方」について、学習を行う。



【第1回】 堀切地区の震災復興の課題を考える （平成20年11月2日）

復興カレンダーに沿って、復興をすすめる場合どんな問題に直面するかを整理し、課題を話し合いました。



【第2回】 堀切にとどまって復興を進める （平成20年11月30日）

堀切では「時限的市街地」をどこに建設できるか、また、つくるにあたって大事なことは何かについて、仮設住宅や仮設店舗の模型を使って話し合いました。



【第3回】 まちの復興計画づくりを検討する （平成20年12月14日）

区から示された訓練用の復興まちづくりの手順と方針の案について話し合いました。

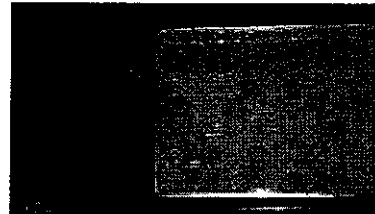


【第4回】 堀切の復興まちづくり手順と方針（案）を提案 （平成21年1月12日）

復興まちづくりの手順と方針のまとめを行うとともに、復興協議会の立ち上げ手順について話し合い、堀切地区震災復興の進め方の手引き（案）の内容を検討しました。



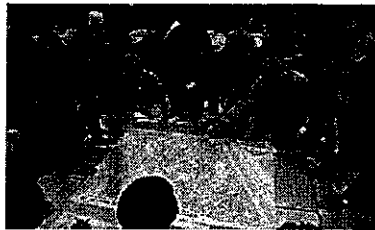
地域へ報告会（防災リーダー研修）（平成21年3月8日）・「堀切地区の震災復興の進め方（案）」の手引き冊子を作成



第1回 復興カレンダーの発表



第2回 仮設住宅デザインゲーム



第3回 復興まちづくり方針検討



第4回 復興の目標イメージ検討

大地震があっても、元気なかつしかを再建する震災復興の進め方のあらまし
『葛飾区震災復興マニュアル（都市住宅編）』概要 平成21年3月
葛飾区（都市整備部街づくり調整課）電話：03（5654）8372 FAX：03（3697）1660
協力：首都大学東京事前復興計画研究会

準備号 2008年10月

【事務局】

堀切まちづくり懇談会地域防災部会

葛飾区都市整備部街づくり調整課

首都大東京事前復興計画研究会

堀切復興模擬訓練かわら版

震災被害を受けたあとどうするの？

堀切で11月から震災復興模擬訓練が始まります

はじめに

近年各地で地震が相次いでいます。みなさまのご家庭では震災への備えは大丈夫でしょうか？堀切自治町会連合会では、区・首都大学東京の協力を得て、震災復興を考える訓練を行うことになりました。

これまで地震が起きたあとの助け合いや消火活動、避難所運営の訓練を行ってきましたが、実際の災害ではそのあとにも困難な事態が生じています。そこで今回は被災後の復興に焦点をあてて、みんなで力を合わせて暮らしや住まい、まちや産業を再建するには、堀切ではどう解決していったらよいかということテーマに、訓練を行います。地域の防災やまちづくりに興味がある方、是非ご参加下さい。

震災復興模擬訓練とは？

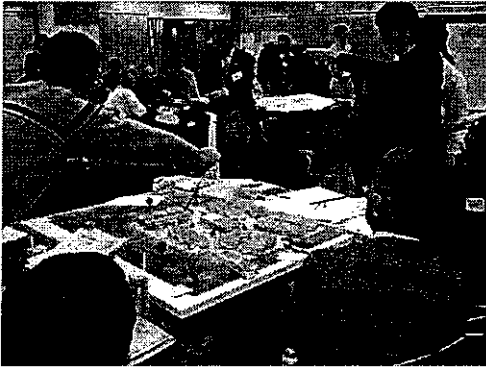
訓練の目的は、大地震の後にまちや暮らしを再建することを、事前に体験し進め方等を準備することです。全体で5回の予定で日程は下欄のとおりです。毎回テーマにそって、被災経験者や専門家

の話を聞いたり、グループで話し合いなど行います。

訓練の結果は、区で検討中の「葛飾区震災復興マニュアル」に反映されることになっていきます。

多くの方の参加を！

いまのところ町会自治会、防炎部会、商店会、まちづくり勉強会などと区職員・大学・各種専門家が参加する予定です。町内の皆様で参加してみたい方、町会防災部会役員または事務局までご連絡下さい。（経過等は「かわら版」でお知らせする予定です）



他地区（S町）の訓練風景

堀切地区震災復興まちづくり模擬訓練の予定

（会場は 堀切地区センター会議室）

- ① 復興訓練ガイダンス 10月22日(水)午後7～9時
参加予定の方に震災復興や訓練内容の案内を行います
- ② 第1回復興訓練 11月2日(日)午後1時半～4時半
テーマ:堀切の震災復興でとりくむ課題を考える
- ③ 第2回復興訓練 11月30日(日)午後1時半～4時半
テーマ:地域にとどまって復興を進める
- ④ 第3回復興訓練 12月14日(日)午後1時半～4時半
テーマ:まちの復興計画づくりを検討する
- ⑤ 第4回復興訓練 平成21年1月12日(祝)午後1時半～4時半
テーマ:堀切の復興の進め方を提案する

事務局(問い合わせ・新規参加申し込み)

葛飾区都市整備部街づくり調整課街づくり調整担当 TEL5654-8372,FAX3697-1660

注) 参加希望の方は、町会防災部会役員または区事務局にご連絡下さい。

できるだけ多くの回に出席できる方をお願いします。



堀切復興模擬訓練かわら版

課題は、堀切にとどまらずに力を合わせて復興する

―第一回震災復興まちづくり模擬訓練が行われました―

第一回訓練のあらまし

11月2日(日)、「第一回堀切地区震災復興まちづくり模擬訓練」が行われました。三連休の中日、絶好の行楽日和でしたが、地域の方々約40名、区、首都大、学東京、及び法律や建築等の専門家団体「災害復興まちづくり支援機構」、東京都職員など、総勢およそ百人が堀切地区センターに集まりました。

10月22日のガイダンスでは阪神・淡路大震災の映像や復興を準備しておくことが重要と説明されました。今回はそれを受け

て、柏崎市えんま通りについて講演をいただき、その後、6班に分かれ話し合いました。

自ら復興に立ち上がった「柏崎市えんま通り商店街」

えんま通りは柏崎市の中心部の昔ながらの商店街です。昨年7月中越沖地震の震度6強によって半分以上の店舗住宅が全半壊しました。直後から商店主が中心になって復興ビジョンをまとめ、一方、「笑福市」「トレーラー店舗」などで元気づくりを進めてきた経緯と、まちの人々の底力が復興には重要という教訓を新潟工科大学田口准教授からお話しいただきました。

「堀切の復興の課題を考える」訓練

続いて大学側が想定被害を発表しました。火災で2割強焼失、全半壊多数というものです。

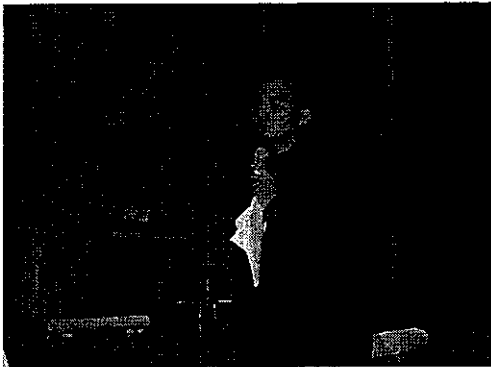
それを受けて参加者は「住まい検討班」「お店検討班」「こう

ば検討班」計6グループに分かれました。まず、配られたカードの役割(高齢者二人世帯、お店経営、作業所経営など)の人になって、震災後どこに行くか、住宅や経営をどうするか、など質問に答えるものです。

最後のそのゲームを通じて堀切で重要な課題を整理しました。特に、

- ・地元をできるだけ離れない
- ・高齢者などへの配慮が重要
- ・地域でまとまって困難な事態に取り組む、などが提起されました。

新潟工科大田口先生の講演 11/2



グループワークの状況 11/2



堀切地区震災復興まちづくり模擬訓練の予定

会場(各回とも):堀切地区センター3Fホール

時間(各回とも):午後1時半~4時半

- 第2回 11月30日(日)「地域にとどまって復興を進める」
- 第3回 12月14日(日)「まちの復興計画づくりを検討する」
- 第4回 平成21年1月12日(祝)「堀切の復興の進め方」

事務局(問い合わせ・新規参加申し込み)

葛飾区都市整備部街づくり調整課街づくり調整担当

TEL5654-8372,FAX3697-1660 前回出席されていない方でも歓迎です。

参加希望の方は、町会防災部会役員か事務局にご連絡下さい。

次回は11月30日(日)
次回は、震災後1ヶ月~半年をテーマに、仮の住まいや営業の継続について堀切ではどう解決するかをみんなで話し合います。

堀切復興模擬訓練かわら版

第3号 2008年12月1日
堀切まちづくり懇談会地域防災部会
葛飾区都市整備部街づくり調整課
首都大東京事前復興計画研究会

地域ので、仮の住まいや店舗・暮らしを確保しよう

第二回震災復興まちづくり模擬訓練が行われました

東京の復興の重要課題

第二回の訓練は11月30日(日)午後、堀切地区センターにて実施されました。参加者は地域の方々40名はじめ、行政・専門家・首都大東京など総勢およそ90人です。

今回の訓練テーマは、復興を進める途上の仮住まい・仮設店舗を堀切ではどう確保するか、住まいの再建や高齢者などの福祉や暮らしの確保をどうするかがテーマです。

まず、首都大東京の中林一樹教授から、東京の震災復興の鍵は、「いかに地域にとどまって協働しながら復興することや事前準備が重要」という講演があり、7グループに分かれて作業を行いました。

地域ので復興に向き合う

第一班は仮住まい等の方針づくりに取り組みました。仮設住宅用地は公園や施設用地では面積が十分でなく、高架下や焼け

跡の活用まで必要になる場合があることなどがわかりました。

第二班は旧小谷野小、第三班はウエルピア、第四班は2箇所の小公園の地図に仮設住宅の模型を並べて、どんな時限的市街地がいいか話し合いました。二階建てにして戸数を増やす、被災者が孤立しない空間づくり、いっしょに生活する「ふれあい住宅」を建設するなど様々な工夫が話し合われました。

第五班はまちの元気をだすための仮設の商店街を焼け跡(想定)に計画しました。生活に必



焼け跡で仮設の商店街を考える訓練(第五班)の報告 11月30日

要な物販、飲食店や、お医者さん・みんなが立ち寄れる施設、イベント、駐車場などの環境づくり、商店の結束が重要であることなど提起されました。

第六班は「住宅の修理や再建」を話し合いました。建築士の方から応急危険度判定で立ち入り危険となっても修繕できる可能性もあるなど実例を話していた

だき、復興期に地元の大工さんや工務店の協力を得ること、そして何よりも地震が起きる前の耐震診断や改修が重要なことなど話し合いました。

第七班は環境の変化に耐えにくい高齢者などの方々を想定して、地域に仮設住宅を建て近所つき合いやケアなども連続させる重要性、気軽に相談したり集まって憩えるまちの拠点づくりが必要などを話し合いました。

震災復興模擬公開相談会

最後に災害復興まちづくり支援機構の専門家の方々(弁護士会など14団体で構成)に登壇いただき、地域の方々から寄せ

今後の予定 会場(各回) 堀切地区センターホール
時間(各回) 午後1時半～4時半

第3回 12月14日(日)
「まちの復興計画づくりを検討する」
第4回 平成21年1月12日(祝)
「堀切の復興の進め方」

事務局(問い合わせ・新規参加申し込み)
葛飾区都市整備部街づくり調整課街づくり調整担当
TEL5654-8372, FAX3697-1660 前回欠席の方でも歓迎です。参加希望の方は、町会防災部会役員か事務局にご連絡下さい。

られた質問に答えていただきました。地盤がずれた場合の土地の確定や地盤の修繕の方法、借地や借家の場合の権利がどうなるか、企業が営業継続するときの問題など、専門の立場から解説していただきました。

次回は「復興の計画づくり」

第三回訓練は、道路や建物など街をどう整備・再建するかなど復興まちづくりの方針や計画について話し合います。是非ご参加下さい。

版からわ訓練擬模興復切堀

第4号 2008年12月15日
堀切まちづくり懇談会地域防災部会
葛飾区都市整備部街づくり調整課
首都大東京事前復興計画研究会

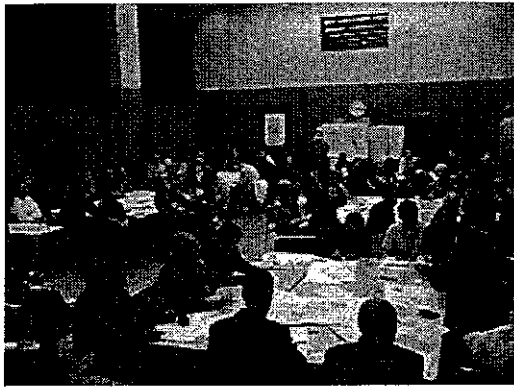
第三回震災復興まちづくり模擬訓練 万一被災したら、堀切の街をこのように再建したい！

街の復興がテーマ

12月14日（日）午後、堀切地区センターにて、堀切地区震災復興まちづくり模擬訓練第三回が行われました。参加者は地域の方々29名はじめ、行政・専門家・首都大学東京など総勢およそ90人です。

第三回訓練は、街の復興の手順と復興まちづくり計画の検討が中心のテーマです。

まず、首都大東京吉川特任教授が、過去の都市復興の事例を



区の復興まちづくり手順と方針の（模擬）説明会（12月14日堀切地区センター）

講演し、「事前にまちづくりを進めておくこと、人材、適切な計画、信頼関係が重要」という指摘がありました。続いて6グループに分かれて作業を行いました。

区から手順と方針案説明

今回は北・中・東南の3地区AB計6班に分かれて、まず、「堀切の復興で大事なこと」「復興する街づくりの目標」を話し合いました。

ついで区によって「復興まちづくりの手順案」と「堀切の復興まちづくり方針案」の模擬説明会が行われました。

復興手順では、地域から復興を話し合う協議会を立ち上げて行政と協働して進めること、復興方針案は復興機運が高まったときに区が説明する案で、今回は震災で焼けた（と想定した）ところを重点に整備する方針の骨子が提示されました。

その後、参加者は再びグループに分かれて、手順と方針案への質問や意見を話し合いました。

発表とまとめ

各グループからの成果発表の主なものを紹介します。

① 堀切の復興では、迅速、しっかりした計画、被災者への配慮、十分な話し合いなどが大事ですが、事前から準備しておくことによってこれらが可能になる、という指摘がありました。

② 復興する街の目標では、「みんなが住み続けられる街」「活気がある街」「堀切の特性を生かした街」「安全で快適な環境」などが提起されました。

これらは災害前から取り組むべきまちづくりといえそうです。

③ 復興の手順では、「ふだんから復興の協議会をつくっておけば迅速に進めることができる」「協議会に参加するリーダーだけでなく一般の方々への情報提供と理解が重要」など大事な意見がだされました。

④ 被害箇所を中心に復興を進める行政からの復興まちづくり方針案は理解されたようですが、「重点的な箇所だけでなく建物

被害のところにも配慮」「堀切の特性として道路の改善、つながり確保が大きい課題」「ものづくりや商業の活性化の方針も重要」「堀切の顔として駅とその周辺を復興したい」「受け皿住宅が必要」など様々な意見がよせられました。

最後に首都大学東京の中林教授から「復興で大事なのは目標とそのプロセス」で「事前から準備しておけば早くしっかりできる」、そのためにも日常の地域づくりが大事になるという講評がありました。

次回は復興訓練の最終回

次回は年明けに、それらの意見をもとに内容を豊かにした「復興まちづくり計画」について話し合います。是非ご参加下さい。

◆第4回訓練のお知らせ

平成21年1月12日（祝）午後1時半～4時半
会場 堀切地区センター3F事務局（問い合わせ等）
葛飾区都市整備部街づくり調整課街づくり調整担当
TEL5654-8372, FAX3697-1660
前回欠席の方でも歓迎です。参加希望の方は、町会防災部会役員が事務局にご連絡下さい。

掘切復興模擬訓練かわら版

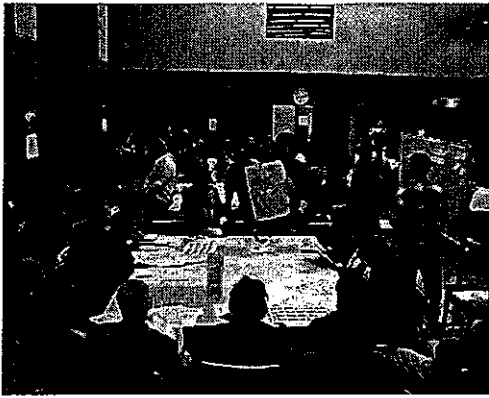
第5号 2009年1月15日
掘切まちづくり懇談会地域防災部会
葛飾区都市整備部街づくり調整課
首都大東京事前復興計画研究会

震災復興まちづくり模擬訓練が無事終了、

掘切地区の震災復興の手順(案)がまとまりました

大盛況の訓練最終回

1月12日(祝)午後、掘切地区震災復興まちづくり模擬訓練の第四回が掘切地区センターにて行われました。訓練の最終回にあたり、参加者は地域の方々36名、区職員・専門家・首都大学東京など総勢およそ百人で、会場は満員になりました。今回は、想定被害に対する復興まちづくり方針案(訓練用)と掘切で復興を進める段取りを話し合いました。



街並みイメージを検討(1月12日)

復興まちづくり方針案と

街のイメージづくり

今回は町会自治会別に6班に分かれ、まず、方針案をもとに復興の街並みイメージを検討しました。想定で焼失した区域では区画整理や再開発が必要、掘切らしい街並みを作る、防災上必要な道路整備等は、災害の前から取り組むことが重要などが話し合われました。

復興まちづくりの手順

復興にあたって、地域から復興を話し合う協議会を立ち上げて行政と協働して進めることにして、具体的な手順を話し合いました。骨子は次の通りで、参加者からは

- ・町会自治会が中心になって多くの被災者を集まってもらうことがよい
- ・住民全体で知っておくこと、実際の時にも広く知らせることが大事
- ・今からでもできることをして

おこう。特にまちづくりなどは事前から進めておかないといけない、など意見が寄せられました。掘切で大被害があった場合は以下のように進めることになりました。

◆掘切地区の復興手順(骨子案)

1. まちの被害を調べる
防災組織(町会自治会)ごとに大被害の箇所を地区センターに通報する

2 「掘切地区震災復興協議会」を設立する
復興への取り組みが必要な時は、連合町会や地域防災部会などが主な地域組織に声をかけて「準備会」をつくり、内外の被災者などに呼びかけ「震災復興協議会」を設立する。

3 協議会の活動態勢をつくる
協議会では役員、情報広報部会など組織をつかって、専門家派遣など区から支援をうけて活動します。特定の整備箇所などでもその関係者の会を設置するよ

う活動します。

4. 協議会の活動を始める
主な仕事は以下のとおりです。
(1) 区などと連携して、掘切の復興計画について提案する
(2) 地区内に時限的市街地(仮設住宅など)の建設を誘導し入居者を支援する
(3) 復興に関する広報、被災者に対する生活支援、地域を元気づける活動など行う

まとめ

最後に首都大学東京の中林教授から、いつかは必ず来る震災に備え「今から組織を用意しておく」、「災害の前からまちづくりを進めておく」とまとめがされました。

地域の方への報告会

訓練は終了しましたが、掘切地区まちづくり懇談会地域防災部会では、3月8日午後2時から掘切地区センターにて、この震災復興まちづくり訓練の報告会を行うことになりました。別途案内を行いますので、その際は是非ご参加下さい。

